

「共存共栄」を心に 地域と業界の発展に寄与していきたい。

松井克爾

代表取締役 / 経営全般



松井さんは、異色の経歴の持ち主。小学生の頃からの将来の夢は、カメラマンとパイロット。どちらの夢も努力し叶えてしまうバイタリティの持ち主です。プロカメラマンと大手航空会社のパイロットの職を経て、家業である現在の仕事に就きます。30歳を目前にして、サラリーマンを続けることに疑問を持つようになり、父や祖父が仕事をしていた姿を思い出したことがきっかけで、家業を継ぐと決めたそうです。

松井織物では「共存共栄」を社訓としています。「製品ができるまでには、糸などの原料を作っているメーカーがあり、更にその前の原料を供給する企業もあります。川上から川下までが揃っていないと自社の製品も作ることはできません。特にこの岡山、倉敷の産地は様々な業種の企業が集まっており、一貫生産のできる産地ですから、どの企業がなくなっても立ち行かなくなります。自社だけが良ければいいという考え方ではなく、倉敷の繊維産地全体が実りあるべきだといった思いを代々受け継ぎ、ものづくりを行ってきました。」

畳縁は、幅が8cmの織物です。畳に使われる場合は、表から見えるのは更に半分の幅となります。以前に地元短大との共同研究で商品企画をした際に、「畳縁という従来の考えは取り払って、8cmすべてを見せて使用すれば良い」という考えが転機となり、現在では従来の概念にとらわれない商品づくりを行っています。自らが動き考えた商品を開発し、世に送り出したいという思いを胸に、日々商品開発に取り組んでいます。



もっと生の声

Q & A

- やりがいを感じるときは、どんな時ですか？
お客様の要望でオリジナル商品を開発するときには、相手先には必ずゼロから提案するようにしています。デザインや色・柄・価格など双方の想いがひとつになり、お客様に喜んでいただけたときにやりがいを感じます。
- 今後挑戦してみたいことはありますか？
畳縁が持つ素材としての用途を改めて見直し、更にオリジナリティ溢れる商品を開発し、提供したいです。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。
決して楽ではないし、種を植えてもすぐに花が開く産業ではありません。花が開いても再び種になり、次の年に花が開くとも限らない。しっかりと根を張り、周囲の環境を見渡し、苦労を重ねた結果、納得のいくものができると思います。自分の畑だけ実り多くとも隣の畑が枯れススキでは、土地そのものが痩せてしまいます。業界全体を実り多い畑にすることも大切です。どうか「共存共栄」を心に、素敵なものづくりを楽しんでください。

